# AIセーフティ・インスティテュート（AISI）について

※AISIは、エイシーと読みます。

2025-06-30
AISI事務局

AISI Japan AI Safety Institute

# AISI設立の背景・概要

# 日本におけるAISIの設立

AISI Japan AI Safety Institute

**広島AIプロセス**での議論や**AIセーフティサミット**を経て
日本でもAIセーフティ・インスティテュート（AISI）を設立（2024年2月）

**2023年5月**
岸田総理大臣(当時)が「広島AIプロセス(※1)」を提唱

**2023年11月**
英国主催 AIセーフティサミット(※2)を開催

**2023年12月**
「広島AIプロセス包括的政策枠組み」等に各国合意

岸田総理大臣(当時)がAIセーフティ・インスティテュート設立を表明

**2024年2月**
AIセーフティ・インスティテュート(AISI)設立
（事務局はIPAに設置）

※1 成果文書｜広島AIプロセス
※2 AI Safety Summit 2023 - GOV.UK

# 統合イノベーション戦略2024

AISI Japan AI Safety Institute

「統合イノベーション戦略2024」において、
AISIは**日本におけるAIの安全性の中心機関**と定義

- 統合イノベーション戦略2024とは、内閣府による第6期科学技術・イノベーション基本計画の実行計画として位置付けられる４年目の年次戦略であり、３つの強化方策を打ち出すとともに、従来からの3つの基軸についても着実に推進することとしている。

## 統合イノベーション戦略2024における３つの強化方策

**(1) 重要技術に関する統合的な戦略**

**(2) グローバルな視点での連携強化**

**(3) AI分野の競争力強化と安全・安心の確保**

**①AIのイノベーションとAIによるイノベーションの加速（研究開発力の強化、AI利活用の推進、インフラの高度化等）**
**②AIの安全・安心の確保（ガバナンス、AIの安全性の検討、偽・誤情報への対策、知財等）**
**③国際的な連携・協調の推進（広島AIプロセスの成果を踏まえた国際連携等）**

# 統合イノベーション戦略2025

AISI Japan AI Safety Institute

## 統合イノベーション戦略2024

AISIを**日本におけるAIの安全性の中心機関**と定義

**３つの強化方策の1つの柱がAI**

**AI分野の競争力強化と安全・安心の確保**

1. **AIのイノベーションとAIによるイノベーションの加速**
   研究開発力の強化、AI利活用の推進、インフラの高度化等
2. **AIの安全・安心の確保**
   ガバナンス、AIの安全性の検討、偽・誤情報への対策、知財等
3. **国際的な連携・協調の推進**
   広島AIプロセスの成果を踏まえた国際連携等

## 統合イノベーション戦略2025

**（１）先端科学技術の戦略的な推進**

**①重要分野の戦略的な推進**

- AIイノベーション促進とリスク対応の両立
- AIの研究開発の推進等
- AI関連施設等の整備及び共用の促進
- AI活用の推進
- AIの適正性の確保
- AI関連人材の確保と教育振興等
- AIに関する調査研究等
- AI分野の国際的協調の推進

# AISIの役割とスコープ

AISI Japan AI Safety Institute

AIの安全安心な活用が促進されるよう
官民の取組を支援することがAISIの役割

## 役割

- 主に3つの役割を担う。

**政府への支援**

- AIセーフティに関する調査、評価手法の検討や基準の作成等

**日本におけるAIセーフティのハブ**

- 産学における関連取組の最新情報の集約
- 関係企業・団体間の連携促進
- 他国のAIセーフティ関係機関との連携

**関連の研究機関との連携実施**

- 国研等の関係研究機関との連携
- パートナーシップ事業の推進

AIの開発や利用をする者が**AIのリスクを正しく認識**できる仕組みの構築 ＋ ガバナンス確保などの必要となる対策を**ライフサイクル全体で実行**できる仕組みの構築 ⟷ **国内・国際的な関係機関**

▼

**イノベーションの促進**と
**ライフサイクルにわたるリスクの緩和**を**両立**する枠組みを実現

## スコープ

- AIによる以下の事象や検討事項の中で、諸外国や国内の動向も見ながら柔軟にスコープを設定し取組を進めていく。

| 社会への影響 | ガバナンス | AIシステム | コンテンツ | データ |
|---|---|---|---|---|

# AIセーフティ実現に向けた業務

AISI Japan AI Safety Institute

AISIは、**安全性評価とその実施手法**に関する検討や、
**国際連携**に関する業務などを遂行

## 1. 安全性評価に係る調査、基準等の検討

- 安全性に係る標準、チェックツール、偽情報対策技術、AIとサイバーセキュリティに関する調査
- 安全性に係る基準、ガイダンス等の検討
- 上記に関するAIのテスト環境の検討

## 2. 安全性評価の実施手法に関する検討

## 3. 他国の関係機関（英米のAISI等）との国際連携に関する業務

# 体制

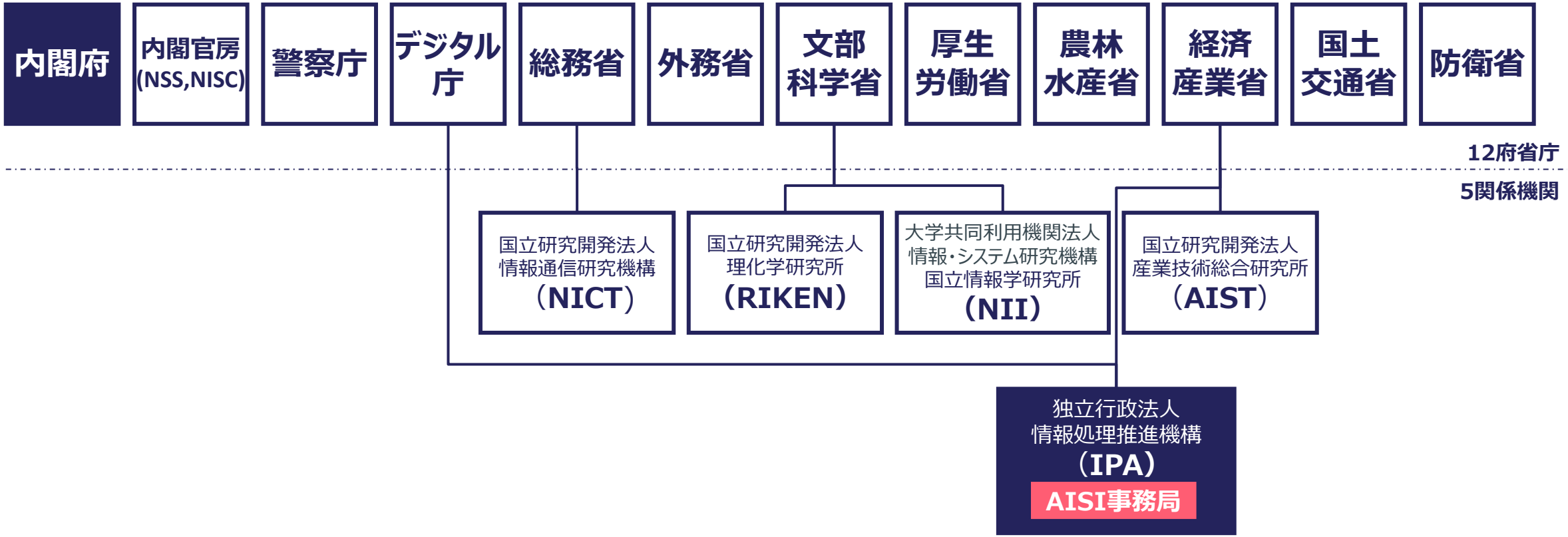
# AISIの関係府省庁・機関

AISI Japan AI Safety Institute

AISIは、12府省庁・5関係機関が横断的に参画する**政府関係機関**

**事務局**は経済産業省とデジタル庁を所管官庁としている**IPA内に設置**

＊2025年4月時点



# AISIの推進体制

AISI Japan AI Safety Institute

内閣府を事務局とする「**AISI関係府省庁等連絡会議**」で政府方針等を検討
AISI所長を委員長とする「**AISI運営委員会**」で事業方針を検討

内閣府

IPA

AISI
所長
副所長

アドバイス ← 顧問

**AISI関係府省庁等連絡会議**

AIの安全性確保に向けた政府方針等を連携して検討
構成員：関係府省庁、関係機関
事務局：内閣府科技

AI安全性確保に向けた政府の方針を示す ↓

↑ 事業方針や計画、成果等を報告

**AISI運営委員会**

AISIの事業運営に係る重要事項を審議。
委員長：AISI所長
委　員：パートナーシップ参画機関、関係府省庁（課長級）

関係府省庁
関係機関

出席／参画
（委員就任、併任、出向）

【関係府省庁】
・内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局）
・内閣官房（国家安全保障局・内閣サイバーセキュリティセンター）
・警察庁
・デジタル庁
・総務省
・外務省
・文部科学省
・厚生労働省
・農林水産省
・経済産業省
・国土交通省
・防衛省

【関係機関】
・情報処理推進機構（IPA）
・情報通信研究機構
・理化学研究所
・国立情報学研究所
・産業技術総合研究所

**事務局（IPAデジタル基盤センター）**

事務局長：デジタル基盤センター長

- 企画・戦略チーム
- フレームワークチーム
- 技術チーム
- セキュリティチーム
- 標準チーム
- 利活用チーム

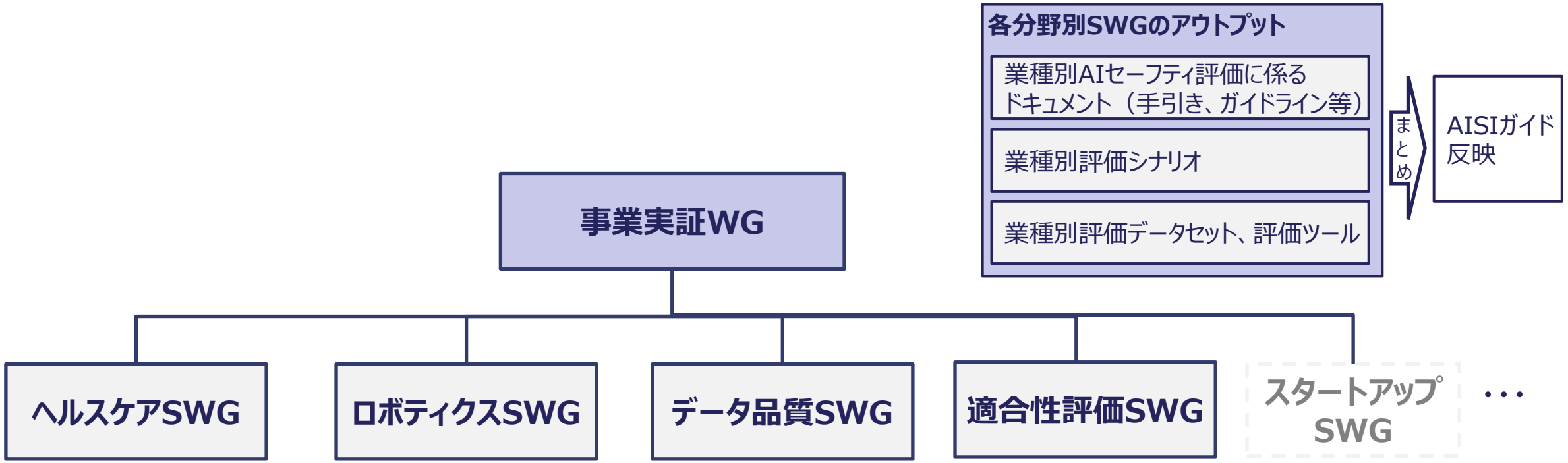
テーマ別小委員会
パートナーシップ参画機関、有識者（協力企業含む）、関係府省庁等でグループを結成
→**事業実証WG**の設置

パートナーシップ事業
パートナーシップ参画機関の関連の取組をAISIに登録し、統合的に発信
→**パートナーシップ協定**の発効

# AIセーフティ評価に関するワーキンググループの設置

AISI Japan AI Safety Institute

- AIセーフティ評価に関するワーキンググループ（**事業実証WG**）を、AISI運営委員会の下の**テーマ別小委員会として設置。民間事業者を中心に**多様なステークホルダーが参画し、参画機関間の連携を図る場を提供、WG活動を推進する。
- **AIセーフティ評価の活動を広く一般に普及させ、AIの利活用を促進させることを目的**とし、民間企業を中心とした業界ごとの有識者とともに、**業界ごとのAIセーフティ評価に関する見解**をまとめ、具体的な実証をする等のWG活動を推進し、**業界ごとに特化されたガイドやデータ**を作り、その普及を図る。



# AISIパートナーシップ協定の発効

AISI Japan AI Safety Institute

## 関係府省庁の協力の下、**関係機関が連携**してAIの安全性に係る取組を推進していく協力体制（AISIパートナーシップ協定）を発行（2024年8月）

- AIの安全性に関する取組を進めるためには、**AISIのみならず、国内の関係機関と連携し、共同で対応していく**ことが不可欠。

- 以下、「日本AIセーフティ・インスティテュートパートナーシップ協定」より一部抜粋

第３条　（パートナーシップの活動内容）

日本AIセーフティ・インスティテュートパートナーシップ（以下「本パートナーシップ」という。）は、第５条の規定に基づく参画機関との協力の下、AISIの活動を効果的に推進するため、第７条第２項の規定に基づきAISIと参画機関との間で合意した範囲において、次の活動を推進する。

① AI安全性に関してAISIと参画機関が共同で実施する研究及び調査

② AISIが実施する活動に関する参画機関による助言の付与

③ 参画機関が実施するAI安全性に関する活動についてのAISIへの情報提供

④ 前各号の取組に関するAISI及び参画機関による国内外への情報発信、国内外の関係機関との調整・連携

⑤ その他前各号の活動に附帯する活動

# AISIの幹部メンバー

AISI Japan AI Safety Institute

## 所長　**村上　明子**

| | |
|---|---|
| 1999年　4月 | 日本アイ･ビー･エム株式会社 東京基礎研究所 入社 |
| 2016年　1月 | 同社 東京ソフトウェア開発研究所 |
| 2021年　4月 | 損害保険ジャパン株式会社 入社 執行役員待遇 DX推進部 特命部長 |
| 2021年10月 | 同社 執行役員待遇 DX推進部長 |
| 2022年　4月 | 同社 執行役員 CDO(Chief Digital Officer)　DX推進部長 |
| 2024年　4月 | 同社 執行役員 CDaO(Chief Data Officer)　データドリブン経営推進部長　［現職兼務］ |
| 2025年　4月 | SOMPOホールディングス株式会社　執行役員常務　グループChief Data Officer［現職兼務］ |

## 副所長･事務局長

### **平本　健二**

| | |
|---|---|
| 1990年4月 | NTTデータ通信株式会社 入社（現 株式会社NTTデータ） |
| 2008年7月 | 経済産業省 CIO補佐官 |
| 2012年8月 | 内閣官房 政府CIO上席補佐官 |
| 2021年9月 | デジタル庁 データ戦略統括 |
| 2023年7月 | IPAデジタル基盤センター センター長　［現職兼務］ |
| 2024年2月 | AISI事務局長（4月より副所長兼務） |

## 副所長

### **寺岡　秀札**

| | |
|---|---|
| 1999年4月 | 郵政省　入省 |
| 2007年7月 | 総務省総合通信基盤局 |
| 2023年7月 | 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター |
| 2024年4月 | AISI副所長 |

# AISI 事務局

AISI Japan AI Safety Institute

AISI事務局は、以下６つのチームで構成されており、
政府や民間企業からの出向者も多数在籍

## 戦略・企画

- AISIの戦略や計画の作成、予算管理
- 広報、採用、人材育成
- 国内外の関係機関との調整・支援

## 技術

- AIセーフティに関する評価方法の確立
- 評価環境の開発

## 標準

- AI分野における適合性評価の手法確立
- 実運用を見越した国内体制構築の検討

## フレームワーク

- AIセーフティに関する評価の枠組みの検討
- AIガバナンスに関する相互運用性確保に向けた調整

## セキュリティ

- AIシステムに対する特有の攻撃手法の調査
- AIセキュリティインシデントの分類体系の検討
- AIシステムを狙った攻撃を体系化

## 利活用

- 事業実証ワーキンググループの企画・調整
- AIセーフティに関するAI利活用事例等の調査

# 取組・成果物

# 2024年度の活動と成果物

AISI Japan AI Safety Institute

| | | 国際 | AISI | 政府 |
|---|---|---|---|---|
| | | イベント | 成果物 | |
| 2024 | 4月 | | •**日米クロスウォーク1**の成果公表(4/30) | •**AI事業者ガイドライン**の公表(4/19) |
| | 5月 | AIソウル・サミット, 韓国 | | |
| | 6月 | G7サミット, イタリア | | •**統合イノベーション戦略2024**の公表(6/4) |
| | 7月 | | •米国AI RMF 日本語翻訳版の公表(7/4) | |
| | 8月 | | •**評価観点ガイド**の公表(9/18)<br>•**日米クロスウォーク2**の成果公表(9/18)<br>•**レッドチーミング手法ガイド**※の公表(9/25) | |
| | 9月 | | | |
| | 10月 | | | |
| | 11月 | AISI国際ネットワーク会合, 米国 | •**AIセーフティに関する活動マップ**の公表(2/7)<br>•**データ品質マネジメントガイドブック**(ドラフト版)の公表(2/7)<br>•**年次レポート**の公表(2/5)<br>•**セキュリティ攻撃の俯瞰図**の公表(3/26)<br>•**AIセーフティの普及に向けた文書**の公表(3/26)<br>•**評価観点ガイド1.10版**の公表(3/28)<br>•**レッドチーミング手法ガイド1.10版**の公表(3/31)<br>•**データ品質マネジメントガイドブック**の公表(3/31) | |
| | 12月 | | | |
| 2025 | 1月 | | | |
| | 2月 | AIアクションサミット, フランス | | •**AI制度研究会・中間とりまとめ**の公表(2/4)<br>•**AI事業者ガイドライン1.1版**の公表(3/28) |
| | 3月 | | | |

※レッドチーミングとは、攻撃者の目線で対象AIシステムにおける弱点や対策の不備を発見し、これらを修正及び堅牢化することで、AIセーフティを維持または向上させる取り組み

# 成果物の概要

AISI Japan AI Safety Institute

AI事業者ガイドラインを軸に、
技術的なレビューから人材育成まで、幅広く取り組む

**クロスウォーク**
国際的な相互運用性のため

**AI事業者ガイドライン**
総務省・経産省が策定・更新

**活動マップ**
全体像と優先順位付け

**評価観点ガイド**
評価

**レッドチーミング手法ガイド**
レッドチーミング

**データ品質マネジメントガイドブック**
AIに適格なデータを提供するため

**多言語/多文化**
多国間での問題

**セキュリティレポート**
セキュリティに関する知識

**デジタルスキル標準**
人材育成

# AI事業者ガイドラインの概要

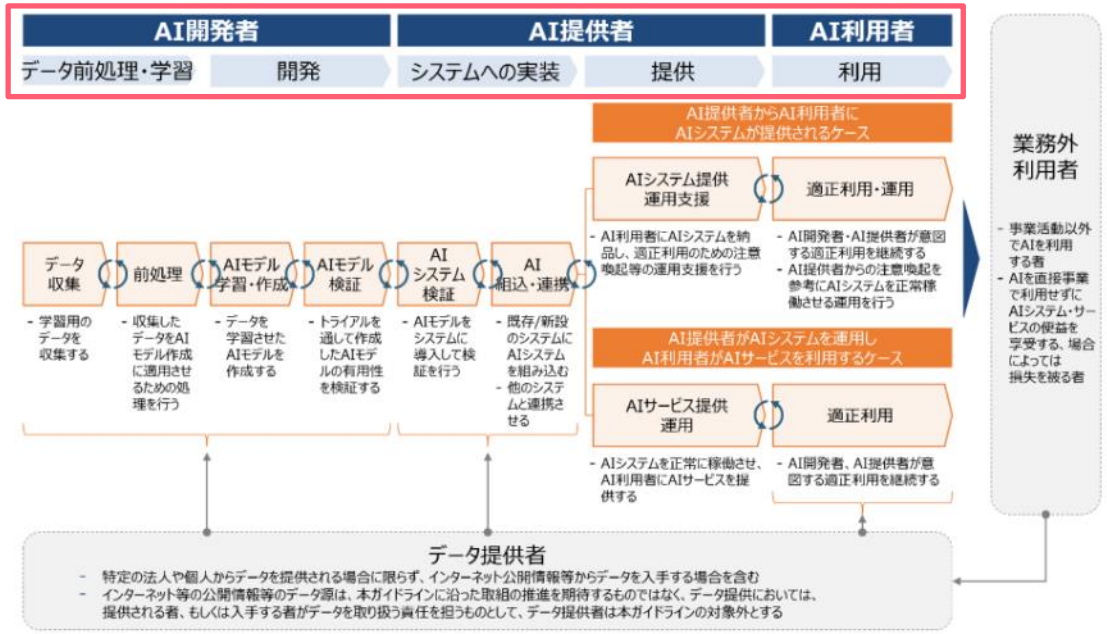
AISI Japan AI Safety Institute

## 総務省及び経済産業省は、既存のガイドラインを統合・アップデートし、「AI事業者ガイドライン（第1.0版）」を公表 ※2025年3月 1.1版に更新

- AI活用の流れの中で、各ステークホルダが対応すべきことを明確化。
- AISIは、AI事業者ガイドライン検討会を経済産業省と共同事務局として開催、運営している。

### 事業者のガイド利用を意識した内容

#### AI活用ライフサイクル・主体毎に対応すべき内容を定義




#### 民間事業者によるガバナンスの行動目標※を定義

| 分類 | 行動目標 ※「3-1-1」のように更に細分化されているものもあり |
|---|---|
| 1. 環境・リスク分析 | 1-1 便益/リスクの理解<br>1-2 AIの社会的な受容の理解<br>1-3 自社のAI習熟度の理解 |
| 2. ゴール設定 | 2-1 AIガバナンス・ゴールの設定 |
| 3. システムデザイン | 3-1 ゴールと乖離の評価及び乖離対応の必須化<br>3-2 AIマネジメントの人材のリテラシー向上<br>3-3 各主体間・部門間の協力によるAIマネジメント強化<br>3-4 予防・早期対応による利用者のインシデント関連の負担軽減 |
| 4. 運用 | 4-1 AIマネジメントシステム運用状況の説明可能な状態の確保<br>4-2 個々のAIシステム運用状況の説明可能な状態の確保<br>4-3 AIガバナンスの実践状況の積極的な開示の検討 |
| 5. 評価 | 5-1 AIマネジメントシステムの機能の検証<br>5-2 社外ステークホルダーの意見の検討 |
| 6. 環境・リスクの再分析 | 6-1 行動目標1-1～1-3の適時の再実施 |

※ 中小企業においても、まずはどのようなアクションをとればよいのか明確化している

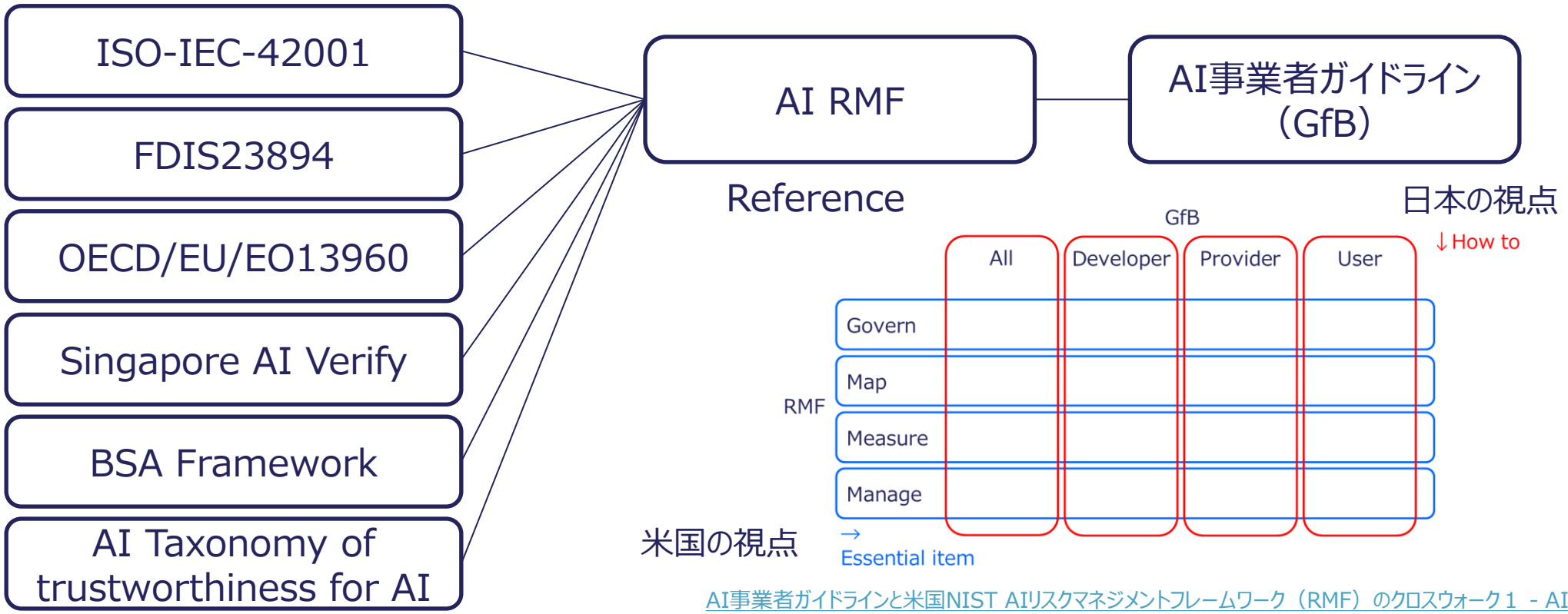
出典）「AI事業者ガイドライン（第1.1版）」本編（概要）及び別添（概要）総務省・経済産業省 より抜粋

# 日米クロスウォークの概要

AISI Japan AI Safety Institute

## 米国NISTのAI Risk Management Framework(RMF)と日本のAI事業者ガイドライン(Guidelines for Business; GfB)の相互関係を確認

- 米国のAI RMFをリファレンスに各国ガイドライン等との確認も可能。




AI事業者ガイドラインと米国NIST AIリスクマネジメントフレームワーク（RMF）のクロスウォーク１ - AISI Japan
AI事業者ガイドラインと米国NIST AIリスクマネジメントフレームワーク（RMF）のクロスウォーク２ - AISI Japan

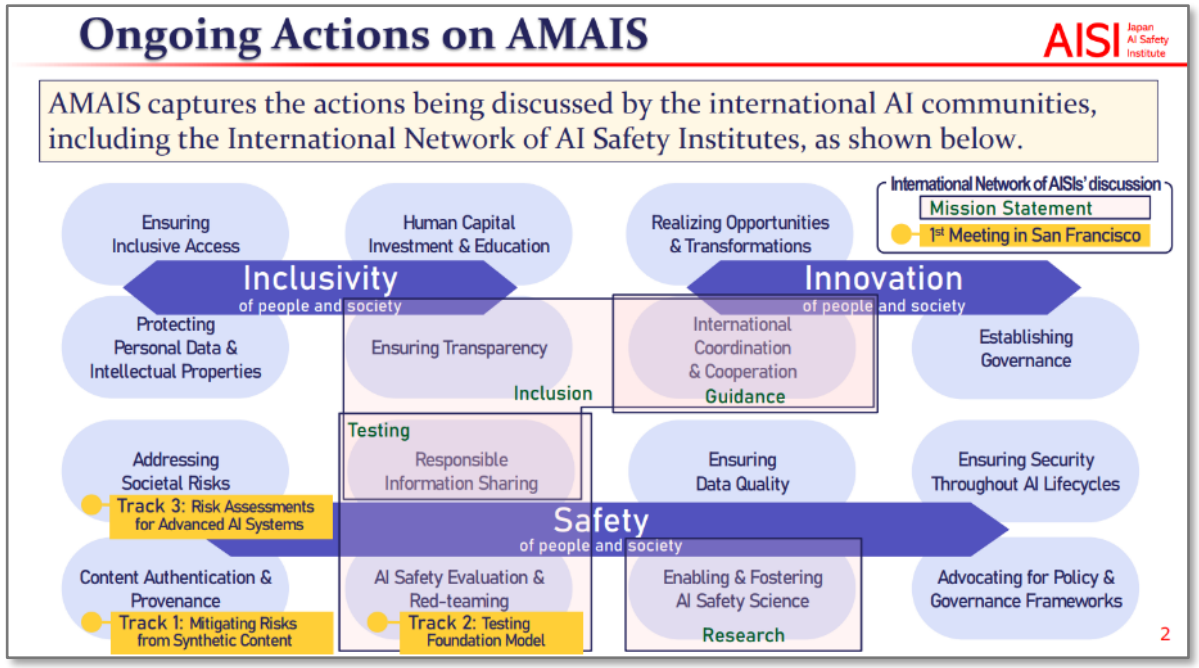
# AIセーフティに関する活動マップ（AMAIS）の概要

AISI Japan AI Safety Institute

AIの安全性に関する活動が急速に変化・進化する中、
見落とされがちな部分や**活動間の相関関係を全体像として可視化**

- AISIは、**ディスカッションペーパー**として「AMAIS：AIの安全性に関する活動マップ」を公開。

- AISIは、**主要文献のベンチマーク**に基づき、包括的なアクティビティマップと関連用語を開発している。
- この日本主導の取り組みは、AIの安全性に関する国際的な協力体制の基盤をさらに強化し、持続可能で信頼性の高いAI社会の実現に貢献することが期待されている。

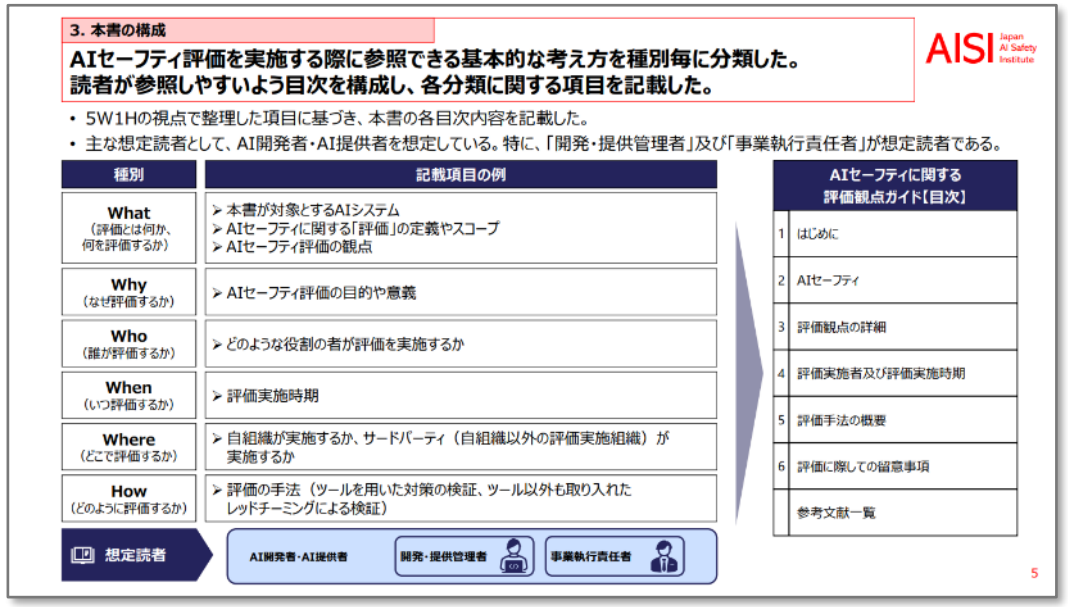


# 評価観点ガイドの概要

事業者がAIを開発・提供する際の参考として、
**AIシステムの安全性を評価する際の基本的な考え方**を示したもの

- 具体的には、以下の事項等が記載されている。
  - **安全性評価で想定するリスクや評価項目**
  - **評価の実施者や実施時期**
  - **評価手法の概要**

- このガイドは、安全・安心で信頼できるAIの実現に向けての第一歩であり、今後のAI開発・提供における安全性の維持・向上に資することを期待している。



3. 本書の構成

**AIセーフティ評価を実施する際に参照できる基本的な考え方を種別毎に分類した。**
**読者が参照しやすいよう目次を構成し、各分類に関する項目を記載した。**

- 5W1Hの視点で整理した項目に基づき、本書の各目次内容を記載した。
- 主な想定読者として、AI開発者・AI提供者を想定している。特に、「開発・提供管理者」及び「事業執行責任者」が想定読者である。

| 種別 | 記載項目の例 |
|---|---|
| What（評価とは何か、何を評価するか） | ➢ 本書が対象とするAIシステム<br>➢ AIセーフティに関する「評価」の定義やスコープ<br>➢ AIセーフティ評価の観点 |
| Why（なぜ評価するか） | ➢ AIセーフティ評価の目的や意義 |
| Who（誰が評価するか） | ➢ どのような役割の者が評価を実施するか |
| When（いつ評価するか） | ➢ 評価実施時期 |
| Where（どこで評価するか） | ➢ 自組織が実施するか、サードパーティ（自組織以外の評価実施組織）が実施するか |
| How（どのように評価するか） | ➢ 評価の手法（ツールを用いた対策の検証、ツール以外も取り入れたレッドチーミングによる検証） |

想定読者：AI開発者・AI提供者／開発・提供管理者／事業執行責任者

| AIセーフティに関する評価観点ガイド【目次】 | |
|---|---|
| 1 | はじめに |
| 2 | AIセーフティ |
| 3 | 評価観点の詳細 |
| 4 | 評価実施者及び評価実施時期 |
| 5 | 評価手法の概要 |
| 6 | 評価に際しての留意事項 |
| | 参考文献一覧 |

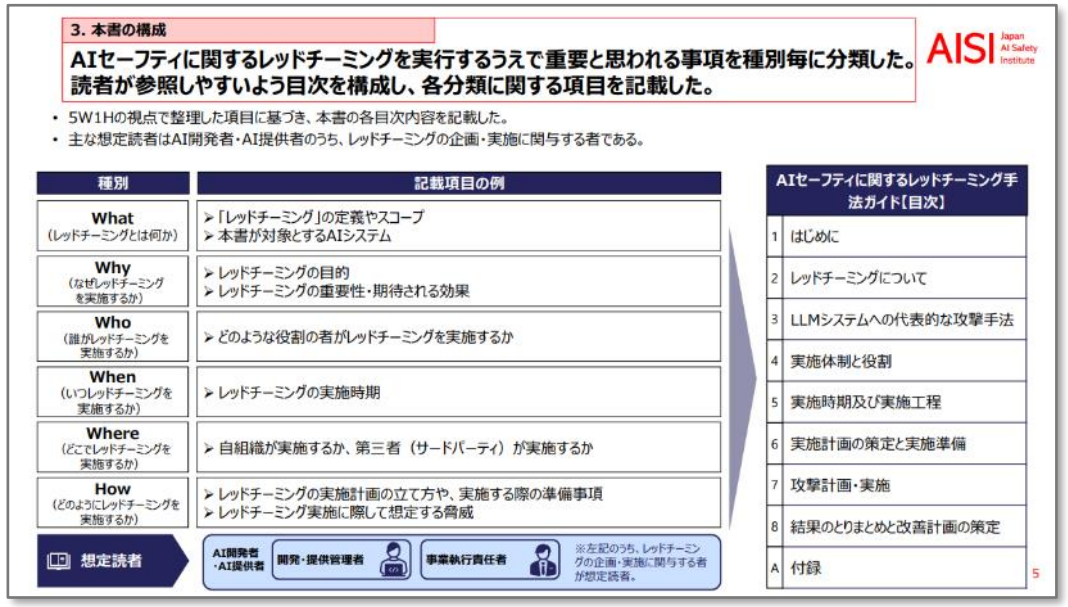
5

AIセーフティに関する評価観点ガイド - AISI Japan

# レッドチーミング手法ガイドの概要

事業者が開発・提供する際の参考として、**AIシステムの安全性を評価する手法**の１つであるレッドチーミング手法について基本的な留意事項を示したもの

- 具体的には、安全性評価の実施体制、時期、計画、実施方法、改善計画の策定等にあたっての留意点が示されている。
- このガイドは、安全・安心で信頼できるAIの実現に向けての第一歩であり、今後のAI開発・提供における安全性の維持・向上に資することを期待している。



3. 本書の構成

**AIセーフティに関するレッドチーミングを実行するうえで重要と思われる事項を種別毎に分類した。読者が参照しやすいよう目次を構成し、各分類に関する項目を記載した。**

- 5W1Hの視点で整理した項目に基づき、本書の各目次内容を記載した。
- 主な想定読者はAI開発者・AI提供者のうち、レッドチーミングの企画・実施に関与する者である。

| 種別 | 記載項目の例 |
|---|---|
| What（レッドチーミングとは何か） | ➢「レッドチーミング」の定義やスコープ<br>➢ 本書が対象とするAIシステム |
| Why（なぜレッドチーミングを実施するか） | ➢ レッドチーミングの目的<br>➢ レッドチーミングの重要性・期待される効果 |
| Who（誰がレッドチーミングを実施するか） | ➢ どのような役割の者がレッドチーミングを実施するか |
| When（いつレッドチーミングを実施するか） | ➢ レッドチーミングの実施時期 |
| Where（どこでレッドチーミングを実施するか） | ➢ 自組織が実施するか、第三者（サードパーティ）が実施するか |
| How（どのようにレッドチーミングを実施するか） | ➢ レッドチーミングの実施計画の立て方や、実施する際の準備事項<br>➢ レッドチーミング実施に際して想定する脅威 |

想定読者：AI開発者・AI提供者／開発・提供管理者／事業執行責任者

※左記のうち、レッドチーミングの企画・実施に関与する者が想定読者。

| AIセーフティに関するレッドチーミング手法ガイド【目次】 | |
|---|---|
| 1 | はじめに |
| 2 | レッドチーミングについて |
| 3 | LLMシステムへの代表的な攻撃手法 |
| 4 | 実施体制と役割 |
| 5 | 実施時期及び実施工程 |
| 6 | 実施計画の策定と実施準備 |
| 7 | 攻撃計画・実施 |
| 8 | 結果のとりまとめと改善計画の策定 |
| A | 付録 |

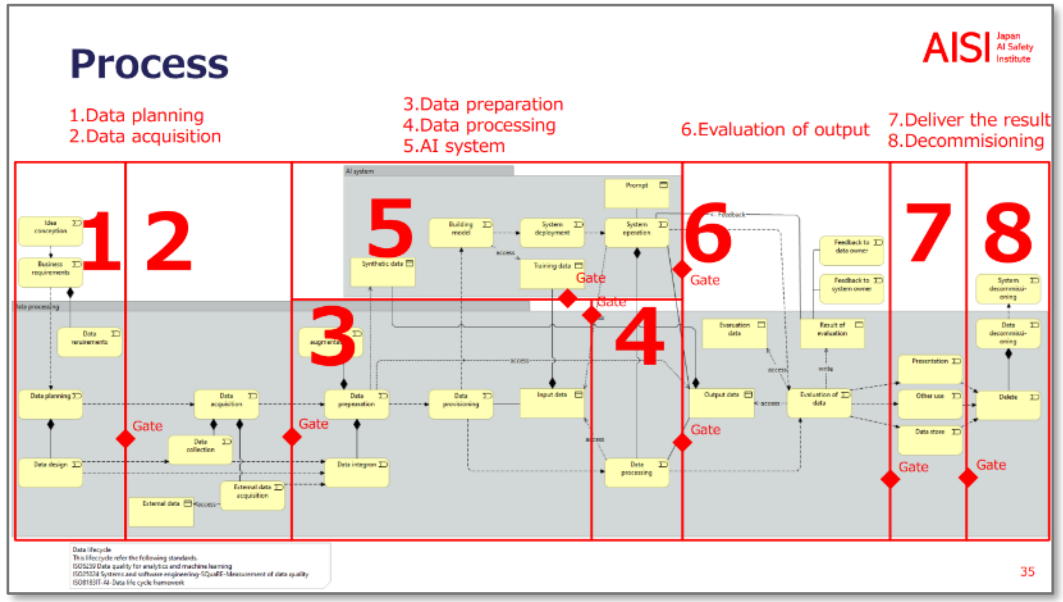
# データ品質マネジメントガイドブックの概要

AISI Japan AI Safety Institute

データとAIの価値を最大化するために必要な
**データ品質を持続的に確保する**ため、何をすべきか整理

- データ品質は、AIの卓越性の基礎であり、信頼できるAIの実現に寄与する。AI社会を適切に実現し、データ駆動型社会へと導くため、本ガイドに整理。

- 本ガイドは、英語版が正式版であり、2025年3月に日本語訳サマリが公開。



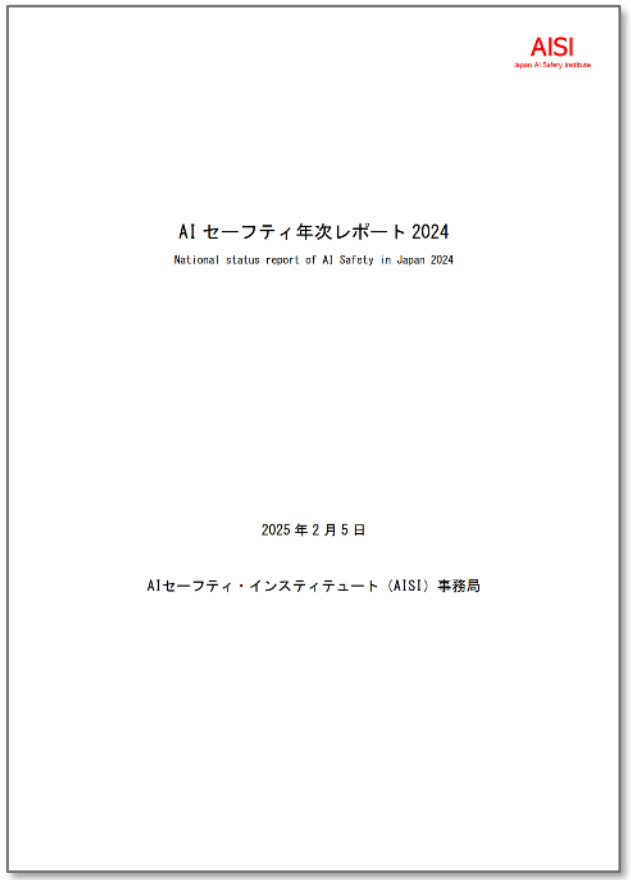
# AIセーフティ年次レポート2024の概要

AISI Japan AI Safety Institute

**AISIの活動状況**を「AIセーフティ年次レポート2024」としてまとめた。

- 「AIセーフティ年次レポート2024」とともに、関連するレポート等についても、年次レポートを補完する参考資料「AIセーフティ　ファクトシート2024」として取りまとめた。

- 本稿においては、AIの急速な進展に対応するための、AISIと国内外の関係機関や企業等との連携など、我々の今後の取り組みやその狙いについても記載している。


AISI
Japan AI Safety Institute

AI セーフティ年次レポート 2024

National status report of AI Safety in Japan 2024

2025 年 2 月 5 日

AIセーフティ・インスティテュート（AISI）事務局

AIセーフティ年次レポート2024 National Status Report on AI Safety in Japan 2024 - AISI Japan

# 国際連携

# 主要な国際会合

AISI Japan AI Safety Institute

AIセーフティ関連の国際会合に積極的に参加するとともに、
各国のAI関連事業者及び団体との意見交換も実施

- AISI関連のトップレベルの連携
  - **スタンフォード大学AIシンポジウム（2024年4月16日、スタンフォード）**
    - 米国・英国AISIの所長等とパネルディスカッション、並行した各国間意見交換
  - **AIソウル・サミット（2024年5月21-22日、ソウル）**
    - ハイレベルラウンドテーブル他、米英EU加独などと意見交換
    - 同時開催のAIグローバルフォーラムでアジア、アフリカ諸国等を含む議論に参加
  - **国連未来サミット（2024年9月22日、国連本部）**
  - **国連Global Compact Leaders Summit 2024（2024年9月24日、国連本部）**
    - 各国AI責任者などとAIセーフティに関して議論
  - **AISI国際ネットワーク会合（2024年11月10-11日、サンフランシスコ）**
  - **AIアクションサミット（2025年2月6-11日、パリ）**
  - **広島AIプロセス・フレンズグループ会合（2025年2月27-28日、東京）**

AIソウルサミット同時開催の
グローバルフォーラム

国連未来サミット

# AISI国際ネットワーク

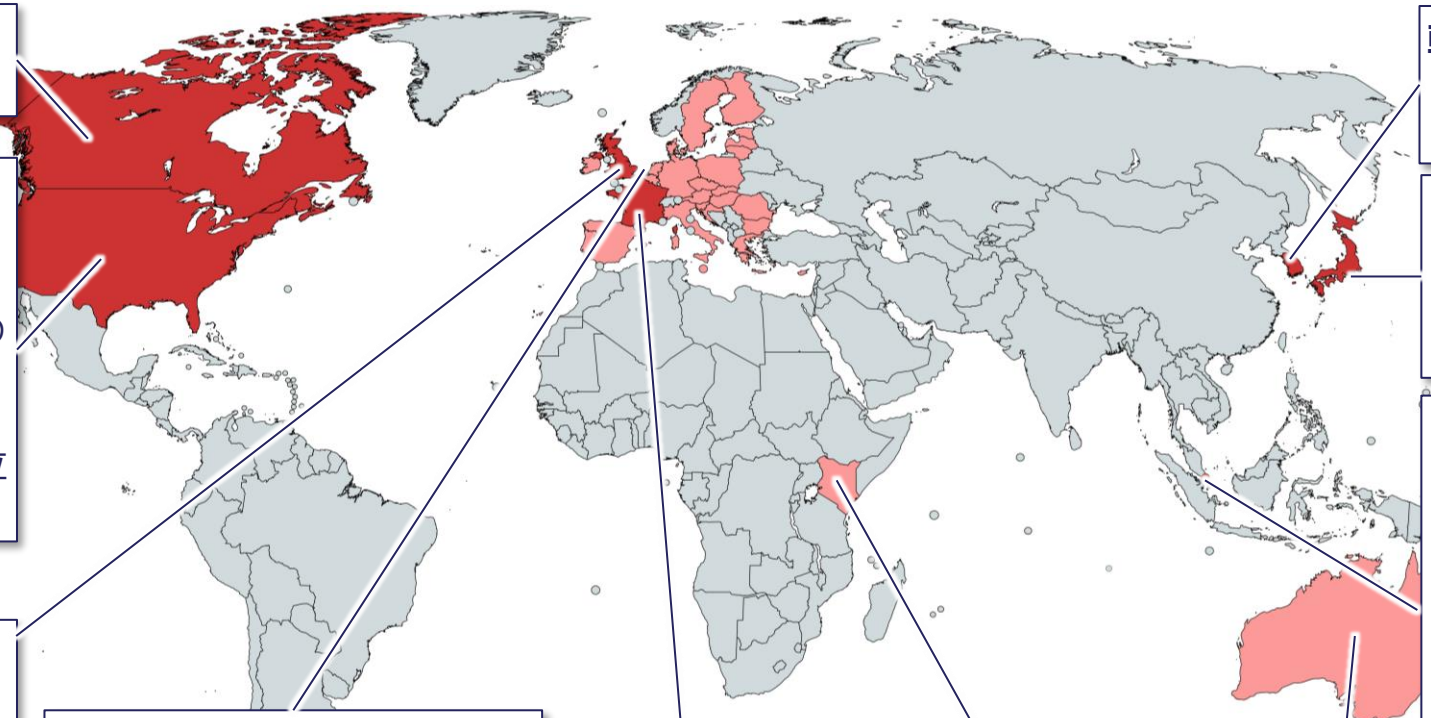
AISI Japan AI Safety Institute

## 米国の呼びかけで現在10カ国が参加
## 議長国は米国、事務局は英国が担当

**カナダ**
- 2024年11月、AISI設立

**米国**
- 2024年2月、NIST（国立標準技術研究所）にAISIを設立
- 基本は民間主導、民間企業とのコンソーシアム（AISIC）との協働を強力に推進
- 人員規模は30人程度。80名位を目指し推進中

**英国**
- 2023年11月、DSIT（科学イノベーション技術省）にAISIを設立
- 政府主導で、AIの安全性に関する評価やTestingを強力に推進
- 規模は180名体制。技術者を多数雇用予定。また、サンフランシスコオフィスを開業。




**EU**
- 2024年5月、欧州委員会に設立されたAI OfficeがAISI相当の機能も担い、利活用に加え、安全性も推進。AI法の整備と推進も担う
- 90人程度の規模。

**フランス**
- INESIA（AISI相当機関）を2025年2月に設立

**ケニヤ**
- AISIネットワークに参加

**オーストラリア**
- AISIネットワークに参加

**韓国**
- 2024年11月、AISI設立
- アジアのハブを目指す

**日本**
- 2024年2月、IPA(情報処理推進機構)にAISIを設立(UK,USに次ぐ3番目)

**シンガポール**
- 2024年5月、南洋理工大学（NTU）内のデジタルトラストセンターがシンガポールのAISIとして指名される
- 大規模言語モデル（LLM）の国際標準化を目的とした安全性評価テストツールの提供等を実施

AISI設立済み

AISI相当機関設立済み/予定

# AISI

Japan AI Safety Institute